

南風学舎

教師と保護者のための子育て資料

平成29年5月29日
第1号 (月1回発行)

※ホームページも合わせてご覧ください

※県校長会研修会で、素晴らしい講演を聴きました。その時の資料です。是非ご一読下さい。

少年がくれた 母親の形見

もう随分前のことなのですが、私がアメリカのスタンフォード大学で教鞭を執っていたとき、同僚の友人から聞いたお話があります。

スラム街で育った少年とその担任の先生のお話です。

その女性の先生は、少年が4年生のときの担任でした。クラスの中でその少年

だけどうしても好きになれませんでした。なぜならいつも汚い格好をしていて、

授業中はいつも居眠りをし、何を言っても反応がないし、疲れ果てたような顔を

していたからです。

ある日、この子さえクラスからいなくなればと思いついて過去の学籍簿をめ

ぐってみました。

1年生のときの学籍簿には「優秀で素直ないい子。この学校の誇りです」と書いてありました。先生は驚いて、今度は2年

生ときの学籍簿を見てもみました。

「お母さんが病気になる毎日が大変らしい」と

縁を生かす

あの日、少年からもらった香水をつけて 先生は少年の結婚式に出掛けた

作家 鈴木 秀子

しい。それでもめげず、よく勉強

していきとありました。

しかし、3年生の学籍簿には「母親死亡

父親がアルコール中毒になったと書いて

あったんですね。

それを見て先生は、10歳の男の子がどんな

毎日を過ごしているか、その背景など想像もしなかつた自分の感受性の足りなさを

思い知らされました。

その日は翌日から長期休暇に入るとい

う日でした。

先生は少年に言いました。「先生は休み

の間、学校に来る日が多いから、もし家に

いるのが大変だったらここに来て勉強する？」と。そして彼の目がぼくと輝いた

といいます。

少年は休みの間中、学校に出てきて、先



【すずき・ひでこ】東京大学人文科学研究科博士課程を修了後、フランスとイタリアに留学し、ハワイ大学やスタンフォード大学にて教鞭を執る。聖心女子大学教授を経て、国際コミュニケーションを紹介。全国および海外からの要望に応えて、「人生の意味」を聴衆とともに考える講演会やワークショップで、さまざまな指導に当たっている。